

今年は



年です



## 光あふれる一年となりますように

今年(ことし)は酉年(とりのとし)です。「酉」は鶏のこと。現代の私たちの食卓には毎日のように卵(たまご)が並び、飲食店などでは鶏肉(とりにく)を使った料理(りょうり)が出されています。私(わたし)たちにとって、鶏(と)は特別な(とくべつな)なじみの深い(ふか)鳥(とり)と言える(い)のではない(ない)でしょうか。

鶏(と)が日本の文獻(ぶんげん)に登場(でんじょう)したのは、『古事記(こじ)』が最初(さいしょ)だと言(い)われています。太陽(たいやう)の神(かみ)である天照大御神(あまてらすおおみかみ)が、弟(あに)・須佐之男命(すさのおのみこと)の余(あま)りの乱暴(らんぼう)な振舞(ふるま)いに、心(こころ)を痛(いた)めて天岩戸(あまのいわと)に閉じ籠(こも)もつてしま(い)う場面(ばんめん)。世界(せかい)は闇(やみ)に覆(お)われ、災(わざ)いがあふれてしま(い)います。困(こ)った八百万(やっぴゃんまん)の神(かみ)々は、知恵(ちえ)の神(かみ)である思金神(おもいかね)に、天照大御神(あまてらすおおみかみ)を岩戸(いわと)から誘(いざな)い出(い)す作戦(さくせん)を考(かんが)えてもら(もら)いました。その作戦(さくせん)の初(はじ)めが、「常世(とこよ)の長鳴鳥(ながなきどり)」つまり夜(よ)明け(あけ)を告(つ)げる鶏(と)を集(あつ)めて鳴(な)かせること(こと)だった(た)のです。鶏(と)の鳴(な)き声(こゑ)をきつかけ(かけ)に、裸(はだか)で踊(まわ)り狂(くる)う、踊(まわ)り子(こ)の天(あめ)宇(う)受(う)賣(う)命(めい)。その姿(すがた)を見(み)た神(かみ)々(々)がどつと笑(わら)い転(ころ)げます。外(そと)の騒(さわ)ぎを「何事(なにごと)か」と思(おも)った天照大御神(あまてらすおおみかみ)は岩戸(いわと)を開(ひら)け、再(また)び世界(せかい)に光(ひかり)が差(さ)しまし(ま)した。

『日本書紀(にっぽんしょき)』にも同(おな)様に鶏(と)を鳴(な)か

せたとの記述(きじゆ)があり、日本神話(にっぽんしんわ)の世界(せかい)での鶏(と)は、ま(ま)さに太陽(たいやう)を呼(よ)ぶため(ため)の存在(そんざい)として描(えが)かれています。左(ひだり)上の写真(しやうしん)は、市内(しやうちん)大泉地区(おおいずみちく)の白鬚神社(しらかげじんじゃ)参道(まじち)にある鶏(と)の像(ぞう)です。鶏(と)の像(ぞう)が奉納(ほうな)されている神社(じんじゃ)は全国的(こくたいてき)にも多(おほ)く、また、天照大御神(あまてらすおおみかみ)を祭(まつ)る伊勢神宮(いせじんぐ)などでは、境内(けいん)に鶏(と)が放(はな)し飼(か)いにされ(さ)れています。こ

れは、天岩戸(あまのいわと)の神話(しんわ)からも分(わか)るとおり、鶏(と)が神(かみ)の使(つか)いである(である)と考(かんが)えら(ら)れているから(から)です。目覚(めざま)まし時計(とけい)など(など)がな(な)かつた時代(じだい)、毎日(まいにち)規則(きそく)正(ただ)しく鳴(な)き、暁(あけぼの)を知(し)らせる鶏(と)は、人々(ひとびと)の生活(せいかつ)に欠(か)かせない鳥(とり)でした。一昔(いっせき)前(まえ)までは農家(いんげ)の庭先(にわさき)などで飼(か)われて(られて)いることも多(おほ)く、「コケコッコー!」という甲高(かたか)い鳴(な)き声(こゑ)を身近(みぢか)に聞(き)くことができ(でき)ました。しか(しか)し、近年(ことしねん)はそ(そ)うした機(き)会(かい)もめ(め)つ(つ)き(き)り少(すく)なくな(な)ったよう(よう)な気(き)が(が)しま(ま)す。

酉年(とりのとし)の今(いま)年(ねん)。威勢(いせい)良(よ)く鳴(な)いて太陽(たいやう)の光(ひかり)を呼(よ)ぶ鶏(と)にあ(あ)やか(か)つて、私(わたし)たち(たち)も元氣(げんき)な声(こゑ)で明(あ)るい話(わ)題(だい)を呼(よ)び込(こ)みたい(たい)もの(もの)です(す)ね。

今年(ことし)が、皆(みな)さん(さん)にとつて光(ひかり)あふれる一(いっ)年(ねん)とな(な)ります(ります)よう(よう)に。

編集・発行／鶴岡市総務部総務課

### 鶴岡シルク・タウンプロジェクト

表紙

## 「kibiso(キビソ)とシルクガールズ」

絹産地の北限であり、絹製品の一連の生産工程が地域内に全て集約されている本市が取り組む「鶴岡シルクタウン・プロジェクト」。鶴岡シルクの伝統・文化を伝えるとともに、絹産業の新たな可能性を切り開くことを目指します。

撮影に協力いただいたのは、蚕が繭を作るときに最初に吐き出す糸「kibiso」を生かした製品づくりに取り組む鶴岡シルク株の大和

匡輔さん、鶴岡シルクを使った衣服をデザイン・製作し、ファッションショー「シルクガールズ・コレクション」を行う鶴岡中央高校「シルクガールズ」の野間桃香さんと藤田海里さん、そして同校教諭の石塚周子さんです。

鶴岡シルクを使用したドレスにkibisoのストールを合わせ、大宝館内に展示してあるkibisoのタペストリー前で撮影しました。



大和匡輔さん、石塚周子さん  
藤田海里さん、野間桃香さん